

野尋禾の
ついのべ
その十
(2010/06)



まえがき

”野尋禾のついのべ その十 (2010/06)”です。
2010年6月に発表したついのべをまとめました。

なんとかの日、とか、それにちなんだお題に乗っかることが増えました。
決して、ねた探しをさぼってるわけではありません。
ということにしておこう。

それから、天候不順のせいか、正気を疑うような作品もまじってます。
あえて、削除しませんでした。
ご了承ください。

あなたの暇を潰す柔らかいハンマー、または曲がるペンチ、それとも……

本コンテンツに収録された作品はフィクションです。
実在する人物、団体名などは便宜上、用いたものです。
実在する人物、団体になんら影響の及ぶものではありません。
ご了承ください。

収録作品はすべて、twitter で発表されたものですが、修正を加えたものもあります。

本ファイルに収録された作品の著作権は、野尋禾／nohironogi／佐々木秀博に帰属します。

2010/08/01

HP : http://www.geocities.jp/nohiro_nogi/
mail : nohironogi@gmail.com
Twitter : @nohironogi

はやぶさ、ろっくんろーる、そして、落語リミックス。(2010/06/01 - 2010/06/10)

#twnovel

誰も儀式の意味に気がつかなかった。
儀式であることにすら思い至らなかった。
液晶を割られ、MPUを抜き取られたiPad。
誰が知ろう。
その置かれた地点を結んだ凶形の意味を。
抜かれたMPUが黒焼きにされた理由を。
人知れず、未来の変革を試みる男の狂気を。
地獄を望む心を……

2010/06/01 (Tue)23:18:35

#twnovel

なぜ、オキナワなのか、と彼等は聞いた。
これが答えだ。
「大統領、現地から報告です——海が割れた。陸地が浮上中。古代遺跡のようなものを確認。巨大な影が……以上。通信途絶状態」
「第七艦隊は？」
「予定どおり展開中です」
「海兵隊に伝えたまえ。オキナワなくして未来なし、と」

2010/06/01 (Tue)23:54:47

#twnovel

「先生、原稿は」
「一行も書けない。想像を絶する馬鹿なことが起こると、創作意欲が湧かない」
「じゃあ、これからどうなるんです？ 次の首相は？」
「わしに聞くな」
「何を今更、先生が書いたとおりにひっちゃかめっちゃかになったんです。先を書いてもらわないと、日本はどうなるん

2010/06/02 (Wed)21:59:27

#twnovel

わが名は”はやぶさ”。

ようやく出発点に近づこうとしている。

長い旅だった。

私をつくり、送り出した人々へ、約束した土産を渡すときが近づいている。

そのミッションを成し遂げたら、私に課されたミッションはすべて終了だ。

私は自由になる。

私は自由な旅人になる。

さよなら、人類。

2010/06/03 (Thu)21:13:49

*原作は”芝浜”。

#twnovel

「あんた、今日こそデブリ回収に行ってもらおうよ！」

「けっ。女房づらすんな。何をしようが俺の勝手だ！」

タンカきって出てきたものの、回収船はもう出動済み。

とりあえず、エアロック・シバを出してみるか。

ん、漂ってきたデブリ、財布だよ。

大金だよ。

(中略)

「夢になるといけねえ」

2010/06/03 (Thu)22:09:37

#twnovel

娘が人参を食べない。

私も食べない。

遺伝だ。

でも、と妻は心配する。

給食に出たらどうするの？

残したらいじめられるかも。

そういえば、私はそのとおりのいじめを受けた。

見本になる決意を固めた。

あろうことか一本まるごと茹でた人参を、娘の眼前でかぶりつく……あれ、うまいぞ。

2010/06/05 (Sat)20:05:42

#twnovel

やあ、みなさん。

旅の空からご挨拶。

いや、空の旅かな。
旅っていいですね。
生まれてこのかた、じっとしてた時間のほうが短いんですが、ぜんぜん飽きませんね。
自分で行き先を決めたいな、とは思いますが。
あ、電波が来た。
今度は……地球？
あ、僕、はやぶさっていいです。

2010/06/05 (Sat)22:24:26

#twnovel

不死身メイド探偵・富士見まろんは、屋敷の屋根の上に黒き魔犬を追い詰めた。
牙で丁寧にくわえているのは、まろんの下着。
すでに他のメイドたちの下着も盗まれている。
魔犬が言った。
「ここまでか。死の安息を奪う呪いを受けよ」
宙に身を躍らせた。
まろんは、また死から遠ざかった。

2010/06/06 (Sun)01:01:05

#twnovel

俺がド田舎に生まれたのは、神様の間違い。
ロックスターへの道は遠く険しい。
だが、大声だけは出せる。
登下校時は大事なボイスレススン。
今日も堆肥くさい大空にシャウト。
「こえだめ」
「誰だ、声駄目だと——うわっ！」
ぼちゃん。
頭上に丸く切り取られた空。
覗き込む片思いの彼女。

2010/06/06 (Sun)10:34:20

#twnovel

駒になれ、と最初に言ったのは祖父。
手づくりの駒を回してくれた。
一本足で回る姿に魅了された。
次に同じことを言ったのはバレエの先生。

軸を意識して身体を動かすことを叩きこまれた。
次が拳法の老師。
その教えが、今日まで私を生き延びさせた。
傭兵仲間は私をレディ・コマと呼ぶ。

2010/06/06 (Sun)19:33:11

#twnovel

「じゃあ、何かい、ガスジャイアントで補給する必要が」
「なくなるね。オリオンからサジタリウスまでひとつとびよ。太陽系に寄り道する必要がなくなるわけだ」
「おいおい、軽く言うなよ。困るよ、それ」
「だろ？ 組合長、青くなっちゃってよ」
「木星圏旅館組合結成以来の危機だよ」

2010/06/06 (Sun)23:50:50

#twnovel

太陽系？ いいよね。最高の穴場だ。
初歩的な擬装だけで、ガスジャイアントも鉱物資源も使い放題。
しかし、なんといっても第三惑星だね。
あんなに、カナワヌユメが豊富な惑星はない。
それが千差万別で、飽きない。
あんなうまいものを、原住民は「食えない」と言うらしいから面白い。

2010/06/07 (Mon)20:16:56

#twnovel

足が重い。
衣服が湿気を吸っている。
六月。
梅雨入りしたのかしないのか。
降るのか降らないのか。
重い雲。
その下で毎日が過ぎてゆく。
五月の憂鬱を抱えたままの僕。
破壊衝動の隣に立ちどまり、タチアオイを見ている。
てっぺんの蕾が咲いたら、夏。
夏が来れば、きっと……きっと、何？

2010/06/07 (Mon)21:09:50

*6月9日が” ロックの日” だとかいうので、乗ってみた。

#twnovel

その人は、私に何かを教えてくださいました。
通りかかった老人介護施設から飛び出してきた老人。
なぜか傷だらけでした。
職員さん達も飛び出して来て、すぐに取り押さえられました。
そのとき、一瞬、目が合い、声を聴いたのです。
小さな、けれど、魂の叫びのような
「ろっくんろーる……」

2010/06/09 (Wed)21:36:56

#twnovel

片足を踏み出した瞬間、重力が反転した。
オーバー・ヘッド・キックみたいなポーズで後ろむきに倒れこみ、後頭部を強打した。
青空から、なにかが俺の顔に落ちてきた。
俺に踏まれて、俺を滑らせたバナナの皮。
天使が降りてきて、ひとしきり笑って、まだ笑いながら、
「ろっくんろーる」

2010/06/09 (Wed)23:15:43

*原作は” 紙入れ” 。

#twnovel

雨音に気づいて、慌てて身支度をした。
「まだ大丈夫。傘、あるでしょ」
たしかに、傘立てにはこうもり傘。
「お迎えコールまでは、へ、い、き」
しなだれかかる彼女。
そのとき、
「ただいま！ どう、おニューの傘！」
——このあと、奇跡の大脱出を果たした僕。
だが、財布を忘れていた。

2010/06/10 (Thu)21:09:04

「ママ、大発見！」

小学生の息子がわずかに水の入ったコップを見せる。

「一時間でここまで雨が降ったんだ。ということは、このコップで時計が作れるんだ！」

「でも、雨はいつかやむわよ」

「やまないかもしれないよ！」

「やまないと困るわよ」

「大人は勝手だ！」

雨の中に駆け出した。

2010/06/10 (Thu)22:29:47

宇宙、ブブゼラ、そして、ブブゼラ。(2010/06/11 - 2010/06/20)

#twnovel

私たちは宇宙人。
いたって温和な宇宙人。
自分で宇宙人と名乗るほどに、異文化に親しんできた。
その結果、円や球を好む種族とは理想的な友好関係が結べる、という経験則を得た。
さて、そこで、あの惑星の知的種族だが……野蛮そのものだな。
ぞっとする。
足で蹴ったり、棒で叩いたり。

2010/06/12 (Sat)23:23:25

*6月13日は、” 恋人の日” 。

#twnovel

「押忍！」
「押忍！」
「本日は、恋人の日である！ 我々、応援団は、素敵な恋人を応援したいと思う！」
「押忍！」
「では、まず、身近なところから、始めたいと思う！」
「押忍！」
「では、諸君、私こと、団長と、副団長の……愛を……応援……して、ほしいな、なんて……」
「押忍？」

2010/06/13 (Sun)00:01:04

#twnovel

「聞きしにまさる大河……しかし、渡らねば」
「殿、渡し守にございます」
「その婆か？」
「いかにも婆さ。しかし、あんたら本気かえ？ こっちから渡るなんて」
「もっともじゃが、こちらは飽和しておる。攻めるしかないのじゃ」
「世も末だね。地獄の軍勢が娑婆に攻め込むなんざ……」

2010/06/13 (Sun)14:39:41

*毎月14日は” ついのべの日” 。6月のお題は” 宇宙” 。

#twnvday

「監督、次回作の脚本がまだ完成してらっしゃらないとか」
「うむ。テーマは宇宙。あとは白紙じゃ！」
「監督、時代劇専門なんですから、時代劇の要素をいれるとか」
「なるほど。おお、閃いたぞ！ 宇宙飛行士が横笛を軌道上に置いている絵が浮かんだ！」
「監督、それはどうかと……」

2010/06/14 (Mon)17:02:16

#twnvday

夜空を見上げて、めまいがしたことはないだろうか。
あまりの星の数に、あるいはその美しさに。
慌ただしい日々のなかでは、夢だったような気がしてくるけれど、忘れはしない。
流れ星を見つけたとき、僕の肩に手を置いたひとの言葉。
初めて、すんなりわかった英語。
願いごとをなさい。

2010/06/14 (Mon)17:49:45

#twnvday

無限に広がる大宇宙。
宇宙の海は俺の海。
俺は海賊。
狙った獲物は逃さない。
命は捕らない。さっさとお宝を置いてきな。
不敵な宇宙海賊。男の中の男……しかし、なんだな。
宇宙ってのは、広いな。
ちょっと航路を離れると、なんにもない。
暇だ。
また、ついのべでも書こうかな——無限に

2010/06/14 (Mon)22:02:44

#twnvday

僕の宇宙——僕を含む宇宙。
今は、音で満たされている。

みんなは不快だって言う。
僕もいい音だとは思わない。
でも、この満たされている感じは——なんていうか、圧倒される。
あの国のスタジアムで、あの笛を吹いている人達は、確実に今、世界を制圧して
いる。
そして、僕の宇宙を。

2010/06/14 (Mon)22:41:33

#twnvday

再突入は、思ったより派手だった。
肉眼で軌跡を確認できたし、ビーコンの発信も順調だった。
そんなわけで、一夜あけると、我々は砂漠の真ん中でカプセルと対面していた。
まだ熱い外殻を慎重に開き、次の殻、次の殻……最後の殻は固めた塩。
ハンマーで割ると、こんがり焼けた鶏一羽。

2010/06/14 (Mon)23:49:44

#twnovel

「監督、次の試合、何か秘策が？」
「そんなの、こっちが教えてもらいたいよ。はい、取材終了ね」
とかなんとか言ったものの、本当に教えてもらいたいよ。
おっと、ボールペン落としちゃった。
華麗に拾いあげ……拾う？
これだ。
なんで気がつかなかったんだろう。
手を使えば、勝てる！

2010/06/16 (Wed)17:02:36

#twnovel

「先生、これ返す」
「どうだった？」
「途中で寝ちゃった。でも、よく眠れたよ……フォローになってないね」
「君に”文七元結”は早かったかな。ま、よく眠れるのも名作の証拠さ」
「それさ、面白いの？」
「君が悩みとうまくつきあって、あと十年も生き延びられたら、きっとわかるよ」

2010/06/16 (Wed)20:46:07

#twnovel

「どうかしら？」

「わあ、君が作ったの？」

「もちろん。こないだ、手作り餃子が食べたいって言ってたでしょ」

「え？ ああ、いや、でも……」

「何？ その言い方は」

「あのさ、僕が言ったのは、手づくり餃子じゃないんだ。君の、その、おいしそうな”手”で作った餃子なんだ」

「！」

2010/06/17 (Thu)22:41:46

#twnovel

「先生、このCD、もうちょっと借りてていいですか？」

「ん。まだ聴いてないのか？」

「聴いたっす。三回聴いて、そのたびに違うところで泣いたっす」

「そんなに気に入ったか。”芝浜”」

「落語って、ちゃんと聴いたことなかったけど、じんと来たっす。俺、酒やめるっす」

「おまえ……」

2010/06/17 (Thu)23:13:26

#twnovel

「先生！ はやぶさのカプセルの簡易検査結果というのが出たようです」

「みなまで言うな。イトカワの砂が発見できないとしても、それはそれでいいじゃないか。でも、からっぽじゃない。きっと、入っているはずさ」

「何がですか？」

「イトカワの空気が」

「……理科の先生ですよ？」

2010/06/18 (Fri)23:37:57

(この時点では、気体が検出されることなど思いもしなかった)

*6月19日、都内某所でついのべ作家たちのオフ会が開催された。
それにちなんで出されたお題が、”襲撃”、”スイーツ”、”昼寝”。
作者は出席しなかったものの、お題には便乗した。

#twnovel

彼女からのメール

「あたしとオフ会とどっちが大事なの！」

どっちだろう……悩んでいたら、山手線三周。
オフ会開始時刻は過ぎている。
走った。
やっぱり、オフ会に出たい！
だが、会場のはずの店は瓦礫の山。
残された壁には、スプレートの文字——
”襲撃神スイーツ参上！”。
誰、それ？

2010/06/19 (Sat)21:22:08

#twnovel

蒸し暑さにうんざりして、昼寝することにした……
火事の夢にうなされて、目が覚めた。
すごい暑さだった。
「おめざめですか。主よ」
「暑いな」
「恐れ多くも、主が午睡を愉しんでおられたので、もう百日も夜が来なかったの
でございます」
「なんと。では、百回も夕餉を食いそびれたか」

2010/06/19 (Sat)21:47:38

#twnovel

テラフォーミング完了。
火星移住計画開始。
だが、入植事業は困難をきわめた。
幾時代、幾世代が、その難事業のさなか、虚しく、その命を散らしていった。
計画段階から指摘されていた問題点は明らかだった。
それでも、火星となった人々は挑み続けた。
白亜紀の地球を再現した惑星に。

2010/06/19 (Sat)23:13:18

#twnovel

入江には、虐殺された海獣の怨嗟が満ちていた。
と、一隻の漁船が、赤いしぶきをあげて二つに折れた。
漁船があったところに、巨人の影。
無数のイルカや魚など、入江の生物の集合体だった。
数時間後、漁村は全滅した。
これを聞いた無名長州藩士が唱えたのが、”コーブ合体論”である。

2010/06/20 (Sun)15:19:04

#kaibun
#twovel

「わやや。笑かすで」

「どー？」

「これは……ま、だめだわ。口、よだれ！」

「恋しい、おきまりの海苔巻き。おいしい！」

「これだよ！ 竹輪だ！」

「目玉は、レコードですから……」

「……わややわ」

2010/06/20 (Sun)23:48:36

遠い雷鳴、裏切り、そして、馬なみ。(2010/06/21 - 2010/06/30)

#kaibun
#twnovel

夏まで待つな。
いたいけな夏至——那珂。
もの言いたげに、蠟燭が描く走路。
逃げた。
井伊のも、悲しげな携帯——夏まで待つな。

2010/06/21 (Mon)22:23:16

#twnovel

不景気が悪い。
俺を解雇した工場が悪い。
復讐だ。
レンタカーに花火と包丁を満載して、正門を突破。
まず、守衛をはねた。
次はどいつだ。
ん、なんだあいつ。
スキンヘッドの野郎が正面に——
あれ、なんで、俺、停車——
あいつの口、動いて——
何？
「理解」
あ——
暗い。
世界が閉じる。

2010/06/23 (Wed)22:22:32

#twnovel

「お呼びした理由は、おわかりですね？」
「はあはあ」
「あなたは、部屋の他の力士数名と一緒に、野球賭博行為をした。まちがいないですか？」
「はあはあ」

「そのやり方というか、手順はどんなものでしたか？」

「はあはあ……あー……そのお、があっ、とって、こう、はあはあ……」

2010/06/24 (Thu)22:06:12

#kaibun
#twnovel

「マラドーナも絵馬おさめたの？ 絵馬……」

「おまえのためさ」

(オマエー！)

……ドラマ。

2010/06/26 (Sat)13:00:23

#twnovel

目覚めると、私はべたべたしていた。

顔といわず手といわず、全身が。

蚊や蠅などが、ぺらぺらな全身の裏表に付着している。

どうやら天井から吊り下されているようだ。

小さな子供が私を見上げている。

そうか——ここは母の実家。

あの子供は私。

三十年前、蠅取り紙に憧れた変な子供……

2010/06/27 (Sun)09:08:24

#twnovel

[広告]

彼女を見上げるあなた。

彼女に頭頂部を見られたくないあなた。

シークレットブーツか、シリコン注入か、迷っているあなた。

そう、あなたです！

当社が、あなたの身長をラクラク30cmアップ！

熱戦の興奮とともに、南アから直輸入！

”ブブヅラ”で、ハット・トリック！

2010/06/27 (Sun)17:35:40

#kaibun
#twnovel

「遠いなら、また、駄目だし……」

「な、呑もう、な？」
遠い雷鳴。
弟が問う——遠い目。
以来、おとなうものなし。
「駄目だ！ たまらない音……」

2010/06/28 (Mon)17:55:44

#twnovel

裏切りの代償は、孤島への放逐だった。
ボスにしては寛大な処置だ。
ドラム缶もセメントも使っていない。
ただ、隣の島が百キロほど離れているだけだ。
運がよければ、復讐のチャンスもある。
ヤクザのヤス。
置き去りのヤス。
京都で覚えた別れの言葉をかけてやろう。
「おきばりやす……」

2010/06/28 (Mon)23:58:55

#kaibun
#twnovel

どんなイカでもかなわない。
六月なのに——わたしにキス。
好きにした。
ワニの夏が、黒い縄。
中もデカイ納戸。

2010/06/30 (Wed)21:35:13

#kaibun
#twnovel

「残りカスで……」
「これ、なんだよ？ すましようどんか」
「遺作で……」
「犬……七月……夏が致死……」
「脱いで」
「臭い？ 感動しますよ」
「……」
「旦那、レコですか？ 璃子の……」

2010/06/30 (Wed)22:30:00

#kaibun
#twnovel

「ほっほう！ 馬なみですかい。ナイスです！」

「否！ イカすで！」

みな舞う。

「うほっほ！」

2010/06/30 (Wed)23:15:00